

## 「高度経済成長期教育史」研究部会（第10回）

日時：2023年1月27日（金）13:00～15:30

場所：野間教育研究所

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 兼任研究員

山口和人所長・吉久知延相談役・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）須田研究員「丹羽美之・吉見俊哉編『戦後復興から高度成長へ』第4部

原子力発電とPR映画」の考察

- ◆「原子力平和利用」の世論形成と「原子力発電所の誘致・建設・稼働」に着目  
推進側・反対側の双方を視野に当事者意識に迫り得る資料の調査分析を進める  
・『記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成長へ』（東京大学出版会 2014）  
第11章 藤本陽一「核物理学者として生きた原子力時代 記録映画と共に振り返る」  
『いま原子力発電所は…』1976年、24分 岩波映画製作所  
第12章 吉見俊哉「被爆の悪夢からの転換—原子力公報言説の戦後史」  
『海岸線に立つ日本の原子力発電所』1987年、27分 岩波映画製作所（資源エネルギー庁、通産省の委託事業）  
国策：経済成長優先、地方：「貧困」からの脱出、立地自治体：後進性からの脱却  
のまえに「原発との共存・協力」「原発への無批判」が選択されていく  
→今後 文書・資料などを見る際の分析視角としたい

（2）西山研究員「『1968』を読む」

- ◆小熊英二著『1968 上・下』（新曜社 2009）
  1. 概要 序章、第1章「時代的背景・世代的背景 上」、第2章「時代的背景・世代的背景 下」、結論 を取り上げる
  2. 意義 「大学紛争」を学問的に分析（始期 段階的分析）、「神話」の解体（全共闘神話 連合赤軍神話）、現代への教訓
  3. 他者からの批判  
資料利用の妥当性（聞き取りを全く行わず）「現代的不幸」の極度の単純化・一般化
  4. 疑問点  
公的資料が全く使われていない、資料の解釈、「現代的不幸」に収斂させすぎではないか、なぜ大学生だったのか（まだ同世代のマジョリティではない）、専ら当事者の回想が典拠、政治過程記述の欠如 など

・次回研究会 3月9日（木）13:00～

・次々回研究会 4月14日（金）13:00～